

大 学 名	神戸市立工業高等専門学校	担 当 教 員 氏 名	松島 恒熙 助教
開 講 期 間	後期 (9/27 ~ 12/20・1/17 ~ 2/7)	開 講 曜 日・時 間	月曜日 18:20 ~ 19:50
対 象 学 年	全学年	募 集 人 員	40 名程度

科 目 内 容	倫理学の根本問題は「人間はいかに生きるべきか」ということである。この講義では科学技術と人間の生き方の問題を考える。科学技術の進歩が現代社会に投げかけている諸問題は科学的・政治的であると同時に、勝れて倫理的問題でもある。その根本には「人間はいかに生きるべきか」という問いがあるからである。この点を生命倫理・環境倫理・情報倫理の問題を通して考えてみたい。		
	各回内容		
	1	応用倫理学とは？ — 「人間」への問い	
	2	人間とは？ — ヒトと類人猿と AI の差異	
	3	科学技術と人間 — ハンス・ヨナスの技術観	
	4	人間の生死と技術 (1) 患者の意思に応じた尊厳死や安楽死は許されるか？	
	5	人間の生死と技術 (2) 脳死は「人の死」か？ — 「死の定義」の問題	
	6	人間の生死と技術 (3) 臓器移植で 10 人を救うために 1 人を犠牲にしてもよいか？	
	7	人間の生死と技術 (4) 胎児に「生存権」はあるか？ — 人工妊娠中絶の是非	
	8	人間の生死と技術 (5) 他人の精子・卵子・子宮で子どもを作ってもよいか？	
	9	人間の生死と技術 (6) 遺伝子技術は「人間の尊厳」を傷つけないか？	
	10	人間と環境 (1) 市場社会システムで地球温暖化問題を解決できるか？	
	11	人間と環境 (2) 生態系を破壊する「移入種」を駆除してもよいか？	
	12	人間と環境 (3) 未来の人間のために環境を守る義務はあるか？	
	13	人間と情報 (1) IT 革命は人間に何をもたらすか？	
	14	人間と情報 (2) 人間は AI と共存できるか？	
15	まとめ		

評 価 方 法：毎時間その日のテーマに関して小レポートを提出してもらおう。これを評価の 5 割とする。後の 5 割は試験で評価する（統一試験が不可能な場合には課題レポートをこれに代える）。どちらも自分の考えをどれだけ論理的に展開できているかどうか、またその独創性が評価の基準になる。

教 科 書：指定しない。

参 考 図 書：講義で随時指示する。

履 修 に あ た っ て：予備知識は一切必要なし。自分の頭で考える訓練が大事である。